

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
令和2年度研究開発実施報告書

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム  
シナリオ創出フェーズ

「地域の医療・保健・福祉・教育が連携して自殺ハイリスクの子どもを守る社会システムのシナリオ創出」

研究代表者 立花 良之  
(国立成育医療研究センターこころの診療部  
乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長)

協働実施者 河西 千秋  
(札幌医科大学 医学部神経精神医学講座  
教授)

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2 - 1. 目標 .....	2
2 - 2. 実施内容・結果 .....	5
2 - 3. 会議等の活動 .....	10
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	11
4. 研究開発実施体制 .....	11
5. 研究開発実施者 .....	12
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	14
6 - 1. シンポジウム等 .....	14
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	14
6 - 3. 論文発表 .....	14
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	15
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等 .....	15
6 - 6. 知財出願 .....	15

## 1. 研究開発プロジェクト名

地域の医療・保健・福祉・教育が連携して自殺ハイリスクの子どもを守る社会システムのシナリオ創出

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2-1. 目標

#### (1) 目指すべき姿

子どもの自殺企図に対するケアのリソースは地域によって大きく異なる。長野市は児童精神科医療機関が少なく、子どもの心のケアを行うリソースが乏しい。また、東京都は全国の都道府県の中でも子どもの自殺数が非常に多い一方で、子どもの心のケアを行う医療機関は多いが、教育や児童福祉など関係機関との相互の連携体制が乏しく、その構築が課題である。特にこれらの地域において子どもの自殺・自傷のケアと予防が地域の課題となっているところ、この解決に向けて、子どもの自殺を確実に防げる環境が整備されている社会が本研究の目指すところである。

特に優先する目標群

#### 3. すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する3.4

2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。

#### 4. 質の高い教育をみんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

##### 4.a

子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。

#### 16. 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

##### 16.1

あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。

##### 16.2

子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。

#### 3-2 相反しないように留意する目標群

相反しないように留意する目標群はない。

#### (2) 研究開発プロジェクト全体の目標

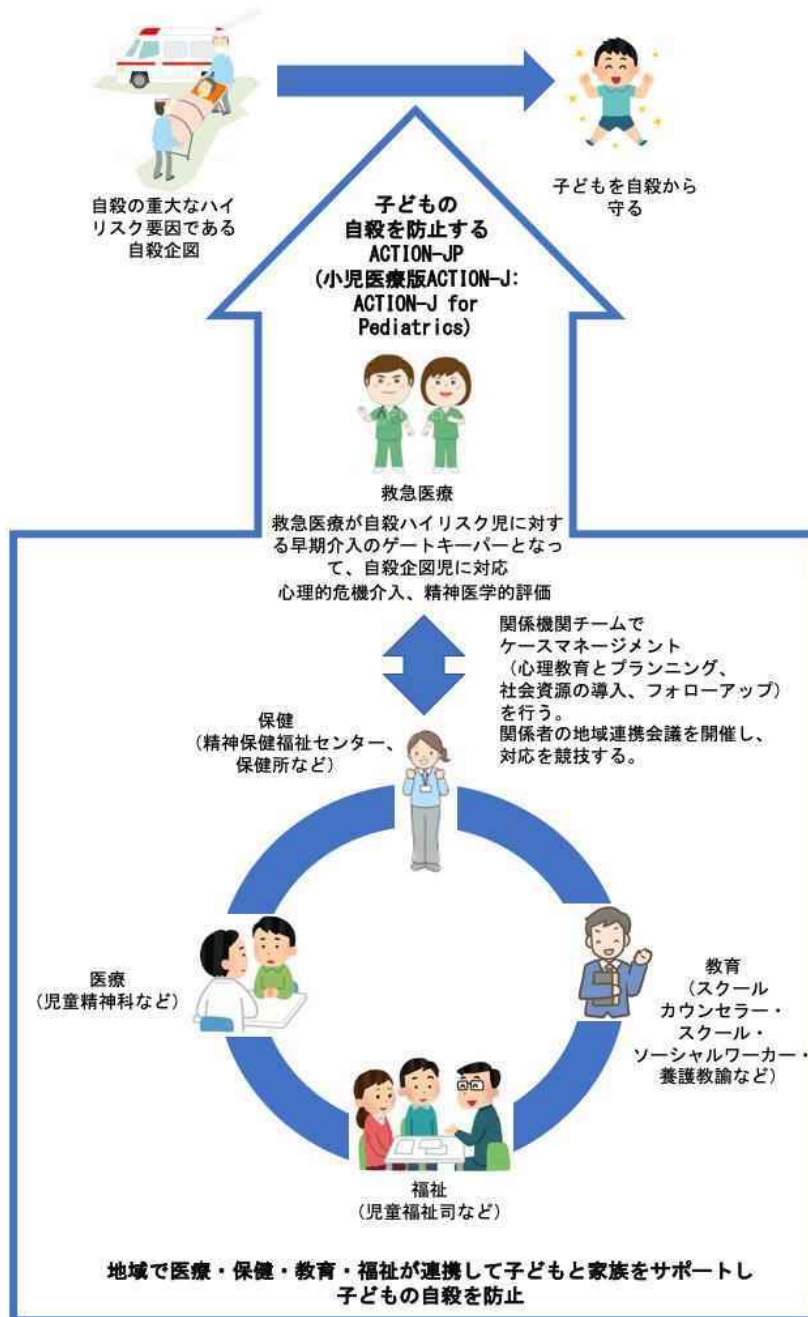
子どもの自殺を防ぐために、成人領域で自殺予防に有効であることが科学的に実証されているACTION-J介入プログラム(救急医療現場における自殺企図者に対し、正確な精神医学的評価、心理的危機介入、ケースマネジメントを行う自殺再企図防止の戦略研究[Kawanishi et al., 2014])を技術シーズとして用い、子どもの自殺のハイリスク者である自殺企図者をケアし自殺再企図を防ぐための医療・保健・福祉・教育などが連携した地域介入プログラム小児医療版ACTION-J (ACTION-J for Pediatrics: ACTION-JP)を実践し、子どもの自殺の再企図を防ぐシステムを構築する。

長野市・東京都でACTION-JPを実施し、アセスメントとフォローアップの実施率、自殺再企図率、子どもの自殺予防に関わる人材の育成とその教育効果などから有効性を検証することと、ウィズコロナの社会環境における子どもの自殺対策のあり方についての検証も検討したい。また、医療経済評価により、子ども自殺対策施策としてのACTION-JPの医療経済的な有効性についても検証する。

#### KPI

小中高生の自殺未遂症例に対する、長野赤十字病院・国立成育医療研究センター・東京医療センター・日本赤十字医療センター・東京都立広尾病院のアセスメントとフォローアップ率(救急対応した自殺未遂症例のうち、その6ヶ月後の時点でケースマネジメントしている症例の割合) : 目標値 80%

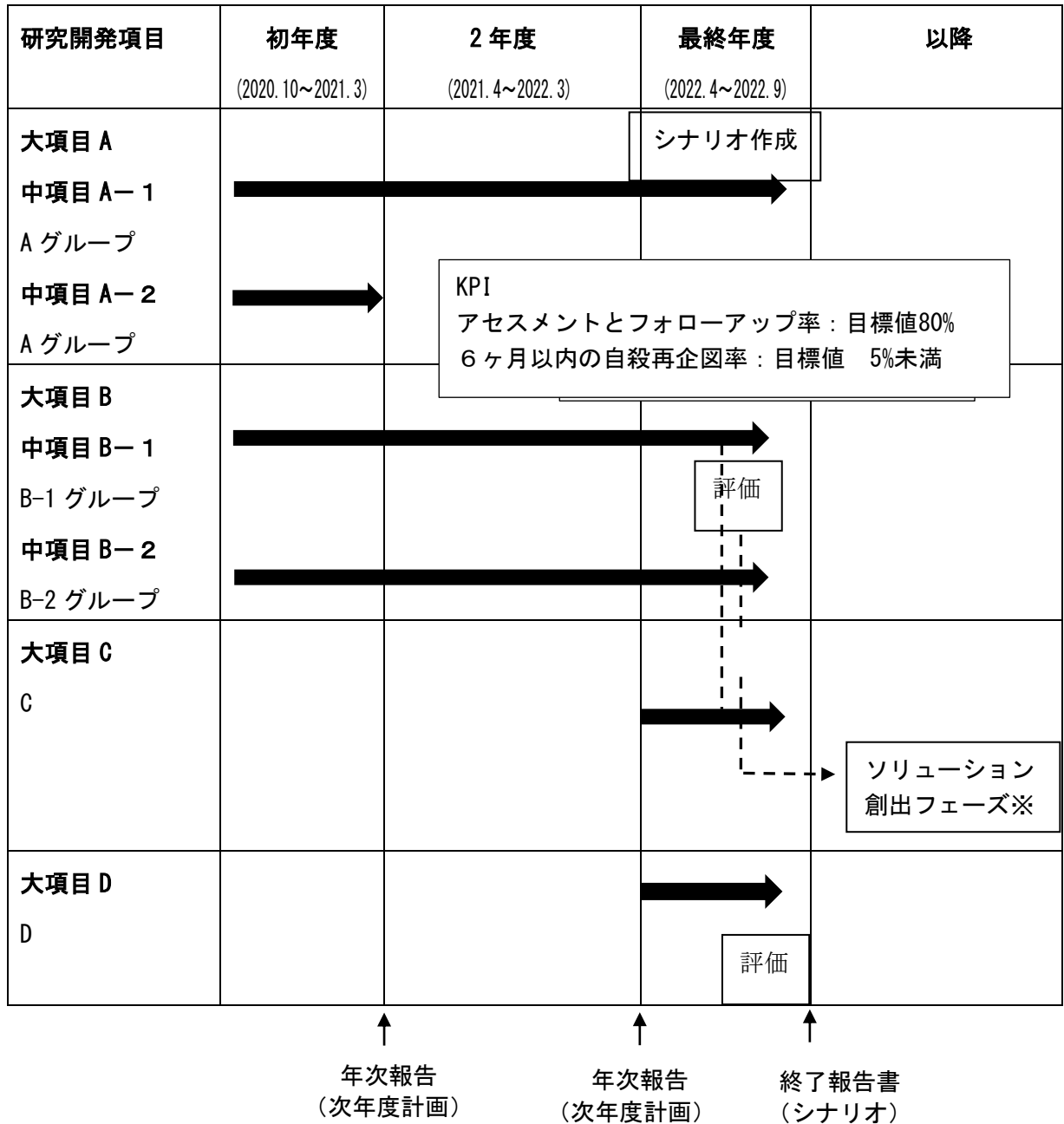
同医療機関における子どもの自殺未遂症例の6ヶ月以内の自殺再企図率 : 目標値 5%(ACTION-Jの介入群と同レベル)



## 2 - 2. 実施内容・結果

### (1) スケジュール

研究開発期間中（24ヶ月）のスケジュール



※上記、各項目の詳細は（2）各実施内容に記載

## (2) 各実施内容

全体計画のうち、大項目A, BについてR2度取り組んだ。

### 大項目A: 有効なプログラム作成

#### 中項目A-1: 救急医療現場における自殺企図者に対する介入プログラム小児医療版ACTION-J(Action-J for Pediatrics: Action-JP)の作成

救急現場で使いやすい精神医学的評価のツールを開発した。具体的には、自殺企図者に対し、下記の自殺念慮 (Ask Suicide-Screening Questions (ASQ)日本語版)、早期精神病 (PRIME Screen)、うつ病 (Wholeyの二質問法) についてのスクリーニングをタブレットPC上で行うものとした。また、救急医療者が自殺企図者の心理社会的リスクを系統的に評価できるようなシートをACTION-Jで使われたものを参考に小児医療に即した内容に改変し作成した。それらの評価をもとに、心理的危機介入及びケースマネジメント (精神医学的評価に基づく心理教育とケアのプランニング、保健、学校や福祉との連携、ソーシャルワーカーが定期的に受診状況を確認することとした。

#### ACTION-JPのプログラム内容

従来のACTION-Jのプログラムの他に、小児医療の特性を踏まえ下記の内容とした。

本人、両親の同意のもと、医療機関から地域の精神保健福祉センターに連絡をする。

1.精神保健福祉センターが学校 (スクールカウンセラーまたはスクールソーシャルワーカーと連携を取り、今回の自殺企図のことを連絡し、児への対応に留意してもらうこと、必要があれば環境調整を行ってもらうことを依頼

2. 家庭内で養育不全や児童虐待があるようであれば、本人・両親の了承をできるだけとった上で、児童相談所と連携する (本人・両親の同意が得られなくても、必要があると判断すれば、児童相談所と連携を取る)

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者

実施者：立花良之 (国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長)

河西千秋 (札幌医科大学 医学部神経精神医学講座 教授)

辻聡 (国立成育医療研究センター救急診療科 診療部長)

小泉典章（長野県精神保健福祉センター 所長）

水本深喜（松蔭大学コミュニケーション文化学部生活心理学科 准教授）

### 中項目A-2. ACTION-JPのマニュアル作成

期間：令和2年10月～令和3年3月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

河西千秋（札幌医科大学 医学部神経精神医学講座 教授）

辻聡（国立成育医療研究センター救急診療科 診療部長）

三木崇弘（みくりキッズクリニック、東京都公立小学校スクールカウンセラー 児童精神科医）

水本深喜（松蔭大学コミュニケーション文化学部生活心理学科 准教授）

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者

### 大項目B: 実施可能性試験

長野市、東京都中部西南ブロックでACTION-JPの実施可能性試験のための準備を進めた。

#### 中項目B-1:長野市におけるACTION-JPの実施可能性試験

【介入プログラムの内容】長野赤十字病院救命救急センターに搬送された子どもの自殺未遂症例があった際に、同院精神科にて心理的危機介入と精神医学的評価を行う。患者・家族から、本研究事業の一環として地域の関係機関でサポートする旨のインフォームドコンセントを得る。あわせて、長野県精神保健福祉センターに患者情報を連絡する。連絡を受けた同センターは、医療・保健・福祉・教育の関係者による子ども・家族のサポートのためのケア会議の日程調整を行い、ケア会議を開催する。同センタースタッフが、心理教育及び児童精神科受診状況の確認を救急受診1ヶ月後、2ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後に行う。

【評価項目】アセスメントとフォローアップの自殺率、自殺再企図率

期間：令和2年10月～令和4年9月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）



横山伸（長野赤十字病院精神科 部長）

小泉典章（長野県精神保健福祉センター 所長）

河西千秋（札幌医科大学 医学部神経精神医学講座 教授）

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者（長野市）

### 中項目B-2:東京都中部西南ブロックにおけるACTION-JPの実施可能性試験

【介入プログラムの内容】国立成育医療研究センター、東京医療センター、日本赤十字医療センター、東京都立広尾病院に搬送された子どもの自殺未遂症例があった際に、それぞれの医療機関で心理的危機介入と精神医学的評価を行う。患者・家族から、本研究事業の一環として、地域の関係機関でサポートする旨のインフォームドコンセントを得る。あわせて、東京都立総合精神保健福祉センターに患者情報を連絡する。B-1のような形でフォローアップする。

期間：令和2年10月～令和4年9月

実施者：立花良之（国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

辻聡（国立成育医療研究センター救急診療科 診療部長）

河西千秋（札幌医科大学 医学部神経精神医学講座 教授）

古野毅彦（東京医療センター精神科 医長）

福田倫明（日本赤十字医療センターメンタルヘルス科 部長）

中ノ谷貴子（東京都立広尾病院神経科 医長）

対象：自殺企図して救急受診した児とその家族、自殺企図した児とその家族をケアする医療・保健・福祉・教育の関係者（東京都中部西南ブロック）

介入プログラムの準備をすすめる中で、児童精神科医が不在の総合病院精神科でどのように子どもの自殺対策を行っていくかの課題が明らかになった。この課題解決のため、地域の児童精神科医療機関（診療所など）と連携して対応していくことが解決策と考えられた。目黒区・世田谷区での子どもの自殺対策ネットワークに、児童精神科医療機関であるクリニックおぐらも参加し、令和3年度以後子どもの自殺対策で協働していくこととなった。

### (3) 成果

#### 大項目A: 有効なプログラム作成

#### 中項目A-1: 救急医療現場における自殺企図者に対する介入プログラム小児医療版ACTION-J(Action-J for Pediatrics: Action-JP)の作成

【今年度の到達点】

R2年度、本研究の地域介入プログラムの元になっているACTION-Jを遂行した札幌医科大学の河西千秋教授、国立精神・神経医療研究センターの山田光彦部長とともに、本研究の介入プログラム作成を行った。本研究で使用するアセスメントシート、フォローアップシートについても議論し、両シートを作成した。

### 中項目A-2. ACTION-JPのマニュアル作成

#### 【今年度の到達点】

上記A-1のマニュアル作成を行った。ACTION-Jのマニュアルを参考に、小児救急医療の現場で、小児医療・教育・児童福祉の関係者が使用しやすい内容とした。

### 大項目B: 実施可能性試験

長野市、東京都中部西南ブロックでACTION-JPの実施可能性試験のための準備を進めた。

### 中項目B-1:長野市におけるACTION-JPの実施可能性試験

#### 【今年度の到達点】

長野県精神保健福祉センターの小泉典章所長を中心に、長野市での子どもの自殺対策のための関係者ネットワークの調整を行い、また、長野赤十字病院での小児自殺企図症例についての検討会の準備を行った。

### 中項目B-2:東京都中部西南ブロックにおけるACTION-JPの実施可能性試験

#### 【今年度の到達点】

R2年度、まず、東京都中部西南ブロックにおける、子どもの自殺防止対策のための地域の関係者会議スタートのため、国立成育医療研究センター・東京医療センター・日本赤十字社医療センター・東京都立広尾病院・東京都中部総合精神保健福祉センターで本研究遂行のための研究倫理審査の承認を受けた。世田谷区の保健・児童福祉、世田谷区・目黒区・渋谷区の教育委員会の関係者と連携し、子どもの自殺未遂症例の検討会の準備を進めた。

#### (4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

R2年度、ACTION-JP遂行のための介入プログラム・マニュアル作成、及び、東京都中部西南ブロック（世田谷区・目黒区・渋谷区）と長野市における医療・保健・福祉・教育が連携した子どもの自殺防止対策ネットワーク構築を行った。研究計画通りに順調に研究が進んでいる。  
子どもの自殺企図に対応している救急医療機関において児童精神科医がいない場合

に、地域の児童精神科医療機関を交えてのネットワーク構築が重要であることが、今年度の取り組みの中で明らかになった。令和3年度は東京都中部西南ブロックにおいて、地域の児童精神科医療機関を含め、ネットワーク構築についてさらなる検討をしていく。

### 2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2020年10月22日	東京都中部西南ブロック子ども自殺防止対策会議	東京医療センター	目黒区におけるACTION-JP実施について協議を行った。
2020年10月29日	東京都中部西南ブロック子ども自殺防止対策会議	世田谷区役所第一庁舎会議室	世田谷区における子どもの自殺防止対策について協議を行った。
2020年10月30日	長野市子ども自殺防止対策会議	長野県精神保健福祉センター	長野市におけるACTION-JP実施について協議を行った。
2020年12月3日	東京都中部西南ブロック子ども自殺防止対策会議	日本赤十字社医療センター	渋谷区におけるACTION-JP実施について協議を行った。
2021年2月22日	ACTION-JPプログラム会議	Web開催	ACTION-JPのプログラム内容について協議を行った。
2021年3月29日	ACTION-JP全体会議	Web開催	ACTION-JP研究班の全メンバーが集まり、プログラム内容・今後の地域での介入プログラム実施について協議を行った。

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

特記事項なし

### 4. 研究開発実施体制

#### (1) A-1グループ

グループリーダー：立花良之（国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

役割：ACTION-JPプログラムの作成

概要：子どもの自殺対策プログラムであるACTION-JPを作成する。

#### (2) A-2グループ

グループリーダー：辻聡（国立成育医療研究センター 総合診療部救急診療科 診療部長）

役割：ACTION-JPのマニュアル作成

概要：子どもの自殺対策プログラムであるACTION-JPのマニュアルを作成する。

#### (3) B-1グループ

グループリーダー：小泉典章（長野県精神保健福祉センター 所長）

役割：長野市におけるACTION-JPの実施可能性試験

概要：長野市においてACTION-JPの実施可能性試験を行う。

#### (4) B-2グループ

グループリーダー：立花良之（国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科 診療部長）

役割：東京都におけるACTION-JPの実施可能性試験

概要：長野市においてACTION-JPの実施可能性試験を行う。

#### (5) Cグループ

グループリーダー：河西千秋（札幌医科大学 医学部神経精神医学講座 教授）

役割：子どもの自殺予防のための研修会開催とその教育効果の検証

概要：ACTION-JPの介入プログラムをもとにした子どもの自殺予防のための研修会を開催し、その教育効果の検証を行う。

#### (4) Dグループ

グループリーダー：蓋若琰（国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部 室長）

役割：ACTION-JPの医療経済評価

概要：子どもの自殺防止対策としてACTION-JPを地域で行うことの医療経済評価について検証する。

## 5. 研究開発実施者

### A-1グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
辻 聡	ツジ サトシ	国立成育医療 研究センター	総合診療部救 急診療科	診療部長
立花 良之	タチバナ ヨ シユキ	国立成育医療 研究センター	こころの診療 部乳幼児メン タルヘルス診 療科	診療部長
小泉 典章	コイズミ ノ リアキ	長野県精神保 健福祉センタ ー		所長
河西 千秋	カワニシ チ アキ	札幌医科大学	医学部神経精 神医学講座	教授
水本 深喜	ミズモト ミ キ	松蔭大学	コミュニケー ション文化学 部生活心理学 科	准教授

### A-2グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療 研究センター	こころの診療 部乳幼児メン タルヘルス診 療科	診療部長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精 神医学講座	教授
水本 深喜	ミズモト ミキ	松蔭大学	コミュニケー ション文化学 部生活心理学 科	准教授
三木 崇弘	ミキ タカ シ	みくりキッズ クリニック		医師

B-1グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療 研究センター	こころの診療 部乳幼児メン タルヘルス診 療科	診療部長
横山 伸	ヨコヤマ シン	長野赤十字病 院	精神科	部長
小泉 典章	コイズミ ノリアキ	長野県精神保 健福祉センタ ー		所長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精 神医学講座	教授

B-2グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療 研究センター	こころの診療 部乳幼児メン タルヘルス診 療科	診療部長
辻 聡	ツジ サト シ	国立成育医療 研究センター	総合診療部救 急診療科	診療部長
古野 毅彦	フルノ タ ケヒコ	東京医療セン ター	精神科	医長
福田 倫明	フクダ リ ンメイ	日本赤十字社 医療センター	メンタルヘル ス科	部長
中ノ谷 貴子	ナカノタニ タカコ	東京都立広尾 病院	精神科	医長
河西 千秋	カワニシ チアキ	札幌医科大学	医学部神経精 神医学講座	教授

Cグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
立花 良之	タチバナ ヨシユキ	国立成育医療 研究センター	こころの診療 部乳幼児メン	診療部長

			タルヘルス診療科	
辻 聡	ツジ サトシ	国立成育医療研究センター	総合診療部救急診療科	診療部長
河西 千秋	カワニシチアキ	札幌医科大学	医学部神経精神医学講座	教授
三木 崇弘	ミキ タカシ	みくりキッズクリニック		医師
水本 深喜	ミズモトミキ	松蔭大学	コミュニケーション文化学部生活心理学科	准教授

#### Dグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職(身分)
蓋若琰	ガイ ジャクエン	国立社会保障・人口問題研究所	社会保障応用分析研究部	室長

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

立花 良之、辻 聡. 子供の自殺を防ぐために精神科医ができること 子どもの自殺企図救急の現場から. 精神神経学雑誌(0033-2658)2020特別号 Page S338(2020.09)

### 6-1. シンポジウム等

なし

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

なし

### 6-3. 論文発表

(1) 査読付き ( 0 件)

●国内誌 ( 0 件)

●国際誌 ( 0 件)

(2) 査読なし ( 1 件)

・立花 良之、辻 聡. 子供の自殺を防ぐために精神科医ができること 子どもの自殺企図

救急の現場から. 精神神経学雑誌(0033-2658)2020特別号 Page S338(2020.09)

**6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）**

(1) 招待講演（国内会議   1   件、国際会議   0   件）

- ・立花 良之. 子供の自殺を防ぐために精神科医ができること 子どもの自殺企図 救急の現場から. 第117回日本精神神経学会学術総会 精神保健に関する委員会シンポジウム 2021年9月19日

(2) 口頭発表（国内会議   0   件、国際会議   0   件）

(3) ポスター発表（国内会議   0   件、国際会議   0   件）

**6-5. 新聞報道・投稿、受賞等**

(1) 新聞報道・投稿（  0   件）

(2) 受賞（  0   件）

(3) その他（  0   件）

**6-6. 知財出願**

(1) 国内出願（  0   件）